

船橋市議会議長賞

感謝の税金

船橋市立習志野台中学校

第三学年

中 右

茜

税金は私にはまだ関係ないだろう。聞いたことはあつたが、そう思っていた。日々の生活の中で気にしてみると、医療、教育、道路、公園、水、私の周りほとんどに税金が使われているようだ。

夏休み、私は病院へ行った。私は生まれつき膝の下から足が欠損しているため、義足をつけて生活している。今までは全く気にせず病院で型を取ってもらい、出来上がった義足をつけて当たり前歩いていた。母に話を聞くと、義足を作る時、約五十万円もかかり、そのほとんどは税金で賄ってもらっているという。初めて知った。驚いた。背がのびたり、痛くなると新しい義足を作ってもらった。義足がないと歩けない。私にとって、絶対になくてはならない物だ。驚きと感謝の気持ちで胸がぎゅっとなった。同時に、誰が税金を払

ってくれているのだろうかとても気になり、調べてみることにした。

日本には約五十種類もの税金があるらしくお給料から払われる税金、住んでいる所の税金、車、お酒やたばこの税金。色々な形で、みんなが負担しているものだと思った。夏休みに親せきで集まったので、「みんなありがとう。」と話をしていると、「あなたも税金を払っているのよ。お買い物をした時の消費税も、税金よ。」と教えてくれた。

買い物の時、何気なく計算していた消費税。母が子供の頃は三パーセント、祖母の頃は、消費税はなかったという。なぜ変わったのか。どのように決めたのか。大人達は「昔はこうだった」と盛り上がっていたが、ますます知りたくなり、色々な人に聞いたり、国税庁ホームページの税の学習コーナーで調べてみた。消費税が三パーセントだったことに驚いて

いたが、外国では、デンマークなど、消費税が二十五パーセントの国もあるらしい。目撃点になった。海外旅行好きの祖母に聞いてみると、デンマークは他の税金も高いが、医療や大学費用も、老後の介護サービスも無料。

健康や老後の心配もせず、安心して子育てや出産もできる国で幸福度が高い国だといわれていると教えてくれた。日本も、昔はなかった介護保険制度や授業料無償化など、時代と共に新しい制度ができていくという。この夏、とても可愛い従兄弟が産まれたが、出産の時は税金のおかげでほとんどお金はかからなかったと聞いた。みんなが選挙で選んだ代表の人達が、どうしたら国民が平等に暮らしているのか、毎日考えてくれているよと教えてもらった。

私はもうすぐ十五歳。人ごとではない。アルバイトもやってみたいし、税金に関わる機会がどんどん増えていくなと感じた。初めて知ったことが沢山あった。そして、もっと知らなければいけないとも思った。税金に支えられていることに、みんなに支えてもらっていることに感謝しながら、一步一步を踏みしめ日々を過ごしていきたい。